

院長挨拶更新

今日も熊本労災病院のHPを訪れていただき、感謝申し上げます。

6月になり、明らかに梅雨の曇りが強くなってきました。京都から熊本に来て22年目になりますが、雨粒の大きさをまだ感じます。梅雨の雨は、「しとしと」という感じが子供の頃からの印象で、新潟でも、京都でもそんなイメージでした。でも、熊本ではだいたい、「バシバシバシバシ」という感じです。2年前の7月4日もそうでした。米どころ新潟では、梅雨の雨と夏の暑さがあった初めて米は豊作、と言われていました。恵みの雨は必須ですが、降りすぎは今年もなんとか遠慮願いたいところです。

現在、朝はバスで通勤しています。家の前に停留所があり、病院まで10分もかかりません。八農分校の生徒さんや白百合のシスターさんも時に乗られます。最近、そのバスを待つときには、自宅マンションを見上げて、ハトの動静を確認するようになりました。つがい+1羽の計3羽が、立ち寄り所になっているようで、朝によく来ます。ハトは平和の使者ですが、糞のみならず、クリプトコッカスという、肺炎を起こす真菌(カビの一種)の使者でもあり、免疫抑制状態のひとつには感染リスクもあると、肝移植後の患者さんにはずっと言ってきました。鳥も、住む環境によって愛でられたり、疎まれたり、人間の身勝手も感じますが、現実には甘くありません。マンションのどこの階も、糞害に憤慨しているようで、ベランダ全体をネットでカバーした人もいますし、止まり木にするベランダに忍者の撒き菱のような棘を置いたりしています。うちでも、ベランダに入ってきて緑色の糞を大量に残すので、安価な方法はないかとネットで探し、キラキラするすだれ状のものをベランダの上に付けてみました。ちょっとましなように思いますが、まだ時々来ては、黙っておけばいいのに、「クックルクー」と鳴くので、棒を用意して追っ払っています。通販でパチンコを買ったの撃退も考えましたが、過剰防衛は鳥獣保護法違反のようです。上階から降ってくる糞で布団も干せないの、脅かしながら、「ここにはヤバイヤツがいる」と、あの小さい頭の中で憶えてほしいと願っています。ちなみに、隣の魚屋さんには、朝、大きなサギが来ます。処理される魚を狙ってのことです。まだ1回しか魚をゲットしたところを目撃していませんが、それでも効率の良い餌場と判断しているのでしょうか。ハトよりは頭が大きくて賢いのかも知れません。なお、当院でも、恥ずかしながら病棟内で、虫や、なんとコウモリも飛びます。とんでもないことで、シーズンでもあり、業者に頼んで時々駆除をしてもらっています。

COVID-19は鎮静の兆しが続いています。しかし、なお、陽性患者さんの入院は断続的にありますし、外来での検査件数、陽性者数もさほど少なくありません。気は抜けないところです。私自身、先日、4回目のワクチンを終わりました。初めてのモデルナでしたが、これまでの3回のファイザーと大差ありませんでした。当院では、1-2回目、3回目のワクチン接種も少しずつ続けていきます。HPでご確認ください。

世界情勢にはなお胸塞がれる思いです。ウクライナの医療者も、まさか戦傷者を多数診るな

んてこと、ましてや医療機関そのものが破壊されるなんてことは、露国侵略前には考えもしなかったでしょう。COVID-19 で行き来がなかった事も、このような国と国との関係にも暗い影響を及ぼしたのではないかと勝手に考えています。顔を知っている人を殺そうとは、ふつうは思わないはずですが(もちろん相手が誰であれそもそもやってはいけないことです!)。私たちも、練習ミサイルが妙にポンポン飛んできたり、某国の軍艦が海峡を我が物顔で通り過ぎたりする環境にいます。戦争になりかければ、COVID 同様「戦傷治療ガイドライン」みたいなものが出るのでしようが、最悪の場合に自分はどのような環境下で何ができるのか、考えなくてはならないように思っています。当院は労災病院であり、産業外傷には他の一般病院より少し指向性は高いですし、交通事故や工場災害などでの高エネルギー外傷、いわゆる物理的ダメージが大きい場合も、整形外科、脳神経外科、外科、集中治療医などが総出で対処にあたっています。熊本赤十字病院には「外傷外科」という部門もありますが、一般的にはなお認知に乏しい領域かと思えます。ただ、野戦病院での外傷治療など、それも一度に大量の場合、どう対応するのか、どこでも教えてくれません。平和な日本で準備が無くて当たり前ですが、誰かがひっそりと考えてくれていることを祈ります。

最近のニュースでもう一点、日本の将来を強く憂うことがありました。昨年の出生が81万人だった、ということです。ちょうど孫が生まれる前後でのニュースで記憶に強く残りました。私の姉が生まれた昭和24年は、269万7千人、私自身の昭和28年は、186万8千人の出生でした。国民人口減は前年比60万人以上となり、熊本市の人口よりちょっと少ないくらいの人口が毎年消えている状態です。生産年齢人口は継続的に減少し、一方65歳以上の高齢人口は28.9%と過去最高を更新し続けます。食糧自給率は低く、資源もなく、人口も減る、日本はどうなるのでしょうか。効率性を追求したあげくの格差の拡大が顕著ですが、今一度、痛み分けではないですが、みなで負担を分け合いながら、ベストではなくてもみなで生活を維持していけるような仕組みを考えないと長くは持たないように思います。身近な個人商店は次々消え、一次産業は衰退してゲーム人口は増える、これで良いのでしょうか。高い教育を活かして良質なものを作って世界に売る、という方向性は魅力的でしたが、それを担った人たちは高齢もあって現場から消えはじめ、その方向性自体、グローバル化のなかで独自性を失いつつあります。医療費の問題でも極めて厳しい将来が待ちます。医療も含めて、限りある資源をどう使い、国を維持するための負担を受け入れていくのか、リーダーだけに任せてはいけないと思っています。

新年度になり、熊本労災病院の近未来を、みんなで明るく作っている真っ最中です。病院の電灯の全面LED化をようやく目論んでいます。病院のロゴマークがないので、職員公募で作ろうとしています。球磨川まつりも今年はありそうで、ひさしぶりの総踊り参加予定です。ただ、職員だけが内輪で盛り上がり「いい雰囲気だ」と自画自賛している病院ではいけないと思っています。律するべきは律し、切磋琢磨して高めるべきは高め、患者様にさらに信頼される病院をつくっていかねばなりません。

鬱陶しい梅雨のあとは、夏休みも控える盛夏です。皆様の息災をお祈りいたします。